

次期埼玉県生物多様性保全戦略(素案)について①

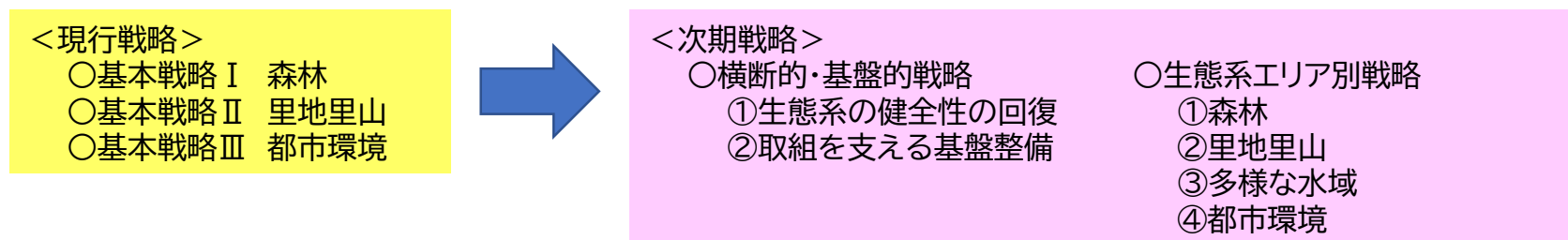
0 基本的な考え方

➤ 位置づけは現行戦略と同様

- ・生物多様性基本法第13条第1項に基づく計画
- ・「生物多様性国家戦略」を基本とし、「埼玉県5か年計画」及び「埼玉県環境基本計画」と整合性を図る。

➤ 計画期間は新たな国家戦略を踏まえ、「2024(令和6)～2031(令和13)年度」とする。

➤ 施策展開を現行戦略から変更



➤ 新たな国家戦略で盛り込まれた「ネイチャーポジティブの実現」や「30by30の推進」などの目標・取組を盛り込む。

➤ 本文構成は現行戦略を基本的に踏襲

<構成>

- 第1章 はじめに(生物多様性をめぐる国内外の動き、生物多様性の法制度、県戦略の位置づけ等)
- 第2章 生物多様性とその危機(生物多様性の3つのレベル、生態系サービスとは、生物多様性の危機)
- 第3章 埼玉県の生物多様性をとりまく状況(自然環境の現況、現行戦略の評価等)
- 第4章 ネイチャーポジティブの実現に向けた取組
- 第5章 各主体に求められる役割

次期埼玉県生物多様性保全戦略(素案)について②

I 戦略の位置づけ等

◆位置づけ

- ・生物多様性基本法第13条第1項に基づく、本県の区域内における生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する基本的な計画
- ・「生物多様性国家戦略2023-2030」を基本に、「埼玉県5か年計画」及び「埼玉県環境基本計画」と整合性を図り、生物多様性保全施策を推進する

【国】生物多様性国家戦略2023-2030

【県】生物多様性保全戦略

【県】環境基本計画(環境全般)

【県】5か年計画(総合計画)

<2030年に向けた目標>
ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現

◆計画期間

2024(令和6)～2031(令和13)年度

II 現状と主な課題

◆現状

- ・埼玉県は関東平野の中央に位置し、利根川や荒川をはじめとした多くの河川、原生林を残す奥秩父の山々や武蔵野の雑木林、低地に広がる水田など、変化に富んだ地形と豊かな自然環境に恵まれている。
 - 約18,000種の県産動植物が生息・生育している一方、アライグマ等の特定外来生物の定着も確認されている。
 - 奥秩父など山地の森林では立ち枯れやニホンジカによる食害の発生が、平地林・丘陵林ではカシノナガキクイムシによるナラ枯れの拡大が確認されている。
 - 野生生物の生息地が本来の里地・里山から市街地へと広がり、人間の生活に悪影響を及ぼしている。

・「生物多様性」の認知度は向上している※ものの、現行戦略の目標は未達成。

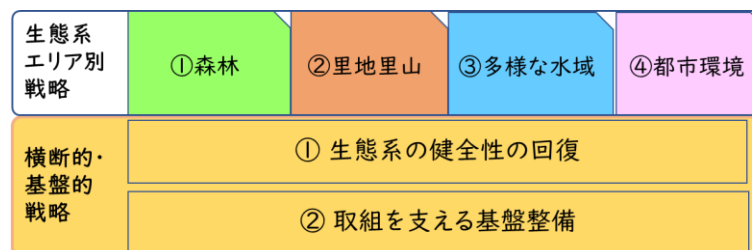
※ 2018(平成30):61.8%→2021(令和3):70.3%

◆主な課題

- 森林、里地・里山などの公益的な機能を発揮させるための適切な維持管理と保全
- 野生動物の生息範囲拡大による被害地域の広域化への対応
- 希少種保全の推進
- 特定外来生物の被害拡大への対応
- 生物多様性保全活動支援の推進
- 環境負荷低減の推進
- 生物多様性の認識・理解の向上
- 30by30の推進
- 生物多様性保全に係る取組を支える基盤の整備

III 施策展開の方向性

エリアごとの戦略
+
エリアを越境する戦略



ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現

次期埼玉県生物多様性保全戦略(素案)について③

IV 主な取組

1 横断的・基盤的戦略

(1)戦略① 生態系の健全性の回復

- OECM*の取組の支援、促進
- 希少野生動植物の保全
- 特定外来生物対策
- 野生鳥獣の適正な保護管理

指標	現状(R3)	目標(R8)
「自然共生サイト」認定数	－	8件(累計)
希少野生動植物種の新規保護増殖箇所数	－	10件(累計)

*法令や制度等に基づく自然環境の保護地域以外で地域、企業、団体等によって生物多様性の保全が図られている場所。

(2)戦略② 取組を支える基盤整備

- 動植物に関する情報の収集・管理・発信
- 多様な主体と協働した保全活動の促進
- 普及啓発・担い手育成
- 埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム

指標	現状(R3)	目標(R8)
埼玉県生物多様性保全プラットフォームの年間アクセス数	－	2万人/年
県民調査報告件数	－	5,000件(累計)
生物多様性の認知度	70.3%	75%以上

2 生態系エリア別戦略

(1)戦略① 多面的機能を発揮する森林の豊かな環境を守り、育てる

- 多様な森林づくりの推進
- 野生鳥獣の個体数管理による森林生態系への被害防止
- 森林生態系の保護の推進

指標	現状(R3)	目標(R8)
森林の整備面積	－	12,500ha(累計)

(2)戦略② 里地・里山の多様な生態系ネットワークを形成する

- 里地・里山整備の促進による生物多様性の向上
- 緑の保全の推進

指標	現状(R2)	目標(R8)
緑の保全面積	557ha	569ha

(3)戦略③ 多様な水域が有機的に結びついた生態系ネットワークを形成する

- 多自然川づくりの推進
- 湿地生態系保全の推進
- 生態系に配慮した持続可能な水田耕作の推進

指標	現状(R2)	目標(R8)
SAITAMAリバーサポーターズの個人サポーター数	0人	24,000人(累計)

(4)戦略④ 人と自然が共生する都市をつくる

- 身近な緑の創出の促進
- 都市公園の整備による緑の創出
- 緑の保全の推進【再掲】
- 都市化に伴う野生鳥獣の適正な保護管理

指標	現状(R3)	目標(R8)
身近な緑の創出面積	－	250ha(累計)

※「埼玉県5か年計画(令和4～8年度)」及び「埼玉県環境基本計画(第5次)」を踏まえ、目標年度は令和8年度とする。